

道建発第131号

平成20年10月16日

国土交通省道路局長 様

徳島市長 原 秀樹



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

（対平成20年9月19日付け国道企第37号）

貴職におかれましては、日頃から本市の道路整備及び本市道路行政に対してご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、表題のことについての本市の意見・提案は別紙のとおりです。よろしくお願い申し上げます。

別紙様式① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- ② 地域の現状と抱える課題
- ③ 地域の目指すべき将来像
- ④ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

四国東部地域の拠点都市であります本市は、高速道路から生活関連道路の整備まで取り組むべき道路行政の課題は多種多様であり、これらの事業を限られた予算の中で効果的・効率的に実施しなければなりません。が、厳しい財政状況下、行財政健全化に取り組んでいるものの、なお、国の支援は必要不可欠な状況にあります。

現在、平成21年度から道路特定財源を一般財源化するための具体的な方策についての議論が行われていますが、その内容によっては本市のように道路整備が遅れている団体への多大な影響が懸念されます。

よって、国においては、厳しい財政状況の中で道路特定財源に加え多額の一般財源を投入し道路整備を進めている地方の現状を十分に認識され、つぎの事項について特段の配慮をいただけるよう要望します。

- ① 整備が遅れている地方の道路整備状況に鑑み、四国8の字ネットワークなどの高速道路、高規格道路等真に必要な道路は計画的に国において整備を進めること。

このため、一層のコスト縮減を行い、引き続き、重点化、効率化を図ること。

- ② 道路特定財源を一般財源化するに際しては、地方財源の充実・強化につながる制度を構築し、道路財源の十分かつ安定的な確保に努めること。

- ③ 地方自治体は地域住民の生命財産を守り、安心・安全で豊かな生活環境を確保する責務があることから、地域の道路整備を支えている地方道路整備臨時交付金制度を存続・拡充するとともに、まちづくりの主体である市町村への道路整備財源の優先確保を図ること。

- ④ 高齢化する道路ストックは増加の一途であり、維持管理や長寿命化に対する予算を安定的に確保すること。

○現状

① 四国の広域交流の場となる高速道路網「8の字ネットワーク」が急ピッチで整備されつつあり、今後、市内への流入が予想されますが、本市の中心部においては、道路整備の遅れから、依然として四国一の交通渋滞が生じており、多大な時間を損失しています。

② 本市の中心市街地を走る鉄道は、市街地を分断し、踏切における慢性的な交通渋滞を発生させ、また、踏切事故の危険性を伴うなど都市機能に大きな影響を及ぼしています。

③ 身近な生活空間を形成する市道の改良率は60.1%と、未だ十分な整備状況ではなく、多くの市民から道路改良の要望が寄せられています。

④ 本市には橋長15m以上の重要橋りょうが、120橋あり、対症的に順次落橋防止対策を実施していますが、20年後には建設後50年を経過するものが半数近くに達する状況にあります。

⑤ 高齢者・障害者等すべての人が利用しやすいユニバーサルデザインの公共施設への導入が求められており、本市においても道路バリアフリー化の取り組みを始めたところであります。

○課題

本市は、都市計画道路整備の遅れや、市街地を分断する鉄道の影響等により、市内の主要な交差点や幹線道路での交通混雑、交通不便地域の存在、生活道路での歩行者・自転車あるいは高齢者等の安全性の確保など様々な交通問題が生じています。

こうした交通問題を解決するためには、放射・環状道路はもとより、その他の主要道路の整備を急ぐ必要がありますが、本市の財政状況や地域住民との合意形成等、その事業実現には多くの課題があります。

高速交通ネットワーク化、多様な市民ニーズへの対応に加えて、少子高齢社会への対応や環境負荷の軽減など、将来に向けた新たな課題への対応も迫られています。

このようなことから、本市では、地域の特性を活かしながら、交通課題への対応に向けた基本理念を定めつつ、集中と選択により計画的に道路整備をすすめていくことが緊急の課題となっています。

徳島市は徳島県の東部に位置し、四国一の大河吉野川をはじめ、大小１３８の河川が市内を縦横に流れ、中心市街地には城山を中心として新町川・助任川に囲まれた「ひょうたん島」の愛称で親しまれている地域があるなど、他都市に類を見ない「水」とともに発展してきた都市です。

また、県都として産業をはじめ、政治、経済、文化、教育、情報といった様々な面において高い集積があり、拠点都市として発展を続けてきました。

また一方で、行財政健全化、中核市構想の推進など取り組むべき新たな課題も顕在化してきたことから、平成１９年に、今後のまちづくりの基本方針となる新たな総合計画・「第４次徳島市総合計画」を策定しました。この新総合計画では『心おどる水都・とくしま』を目指す将来像とし、『元気』、『安心』、『信頼』の３つをまちづくりの基本理念としています。

総合計画の各施策をより実効性のあるものとするためには、限られた財源を有効活用し、選択と集中により、施策を展開していくことが求められ、今後１０年間で特に優先的に取り組むべき項目をまちづくりの基本理念に基づき、リーディング・プロジェクトとして設定しています。

道路行政部門におけるリーディング・プロジェクトはつぎのとおりです。

① 徳島自動車道・四国横断自動車道の整備促進

② 安全で利便性の高い都市交通体系の確立

③ 誰もが暮らしやすいまちづくりの推進

④ 公共施設の耐震対策の推進

⑤ アドプト活動の拡大

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④－１
徳島県徳島市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・都市機能の充実・強化	・徳島自動車道・四国横断自動車道の整備促進 ・都市計画道路の整備 ・徳島外環状道路の整備促進・周辺対策 ・連続立体交差事業	本市は、県都としてさまざまな都市機能が集積しているが、経済のグローバル化や社会構造の変化等、広域化が進展している状況を踏まえ、四国東部地域の拠点都市として40万人規模の中核市構想を推進し、積極的に広域的な都市圏の形成を進めることが重要であると考えている。 社会経済活動をはじめとする広域的な地域間交流は、新たな産業や文化の創出につながることから、高速交通網を整備促進することにより、高速交通網を生かした、四国や近畿圏との産業・文化など、さまざまな分野における広域的な交流や連携の拡大を図ることができる。 また、放射環状道路や連立立体交差事業等の都市交通網を整備することにより、渋滞緩和を図ることができ、緊急時はもとより移動時間が短縮され快適で一体感のあるまちが形成される。	

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式④－２

徳島県徳島市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・快適な中心市街地の形成	・徳島駅周辺市道のバリフリー化事業 ・中心市街地の電線類地中化事業	・本市のまちづくりの基本理念のひとつである「元気とくしま」の実現のためには「中心市街地の活性化」が大きな課題となっており、高齢者や障害者を含むすべての人が安全で快適に行き来ができる道路整備により、県都の中心として栄えた、かつての賑わいのあるまちを再現する。	
・大規模な地震に強い国土づくり	・橋りょう耐震補強事業	・今世紀前半にも発生が予測されている東南海・南海地震に備えて広域避難場所に至る市道に架かる橋りょうの耐震補強を実施することにより、緊急避難道路及び緊急輸送路を確保する。	